

専攻の区分「芸術工学」の修得単位の審査の基準の改正について

平成23年度から、専攻の区分「芸術工学」の修得単位の審査の基準を改正します。
改正後の審査基準による学位授与申請の受付は、平成23年度4月期からとなりますので注意してください。

専攻の区分

専攻分野の名称

芸術工学

芸術工学

技術の基盤となる科学と人間精神を自由に発現する芸術とを統合して、技術のありようを計画し、その機能を設計して、新しい社会的価値を創造していくのが芸術工学である。芸術工学においては、「人間と歴史・文化」、「技術と科学」、「計画と設計」という3つの領域を、デザインという観点から学際的に統合していく能力が求められる。このため幅広い視点に立脚して専門科目や関連科目を学修し、講義で得た知識を演習科目や実験・実習科目によって確認していくことが必要となる。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62単位以上）

専攻に係る授業科目の区分	専門科目（40単位以上）	
	【A群（講義・演習科目）】（20単位以上） ○芸術工学の基礎となる科目 ○生活機器・環境デザインに関する科目 ○画像・音響デザインに関する科目 ○インタフェースデザインに関する科目 【B群（実験・実習科目）】（10単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目 ○画像・音響デザインに関する実験・実習科目 ○インタフェースデザインに関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから「芸術工学の基礎となる科目」の区分を含み2区分以上にわたること
	関連科目（4単位以上）	
	◇美術・デザインに関する科目 ◇音楽に関する科目 ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

■ 専門科目の例 ■

【A群（講義・演習科目）】

○ 芸術工学の基礎となる科目

デザイン論、基礎デザイン、デザイン史、デザイン文化論、図学、製図、表示方法論、色彩学、造形論、形態学、数理造形、認知工学、人間工学、生理人類学、感性工学、感性科学、感性情報学、デザイン材料、生産技術論、材料工学、構造力学、機構学、デザイン解析論、記号論、環境論、環境工学、音響論、信号処理、情報論、プログラミング、ソフトウェア工学、コンピュータ科学、機能論、写真学、印刷学など

○ 生活機器・環境デザインに関する科目

工業デザイン論、工芸・クラフト論、プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン、生活用具論、形態デザイン論、製品解析、デザインマネジメント、デザイン方法論、インテリアデザイン、パブリックデザイン、空間デザイン、環境設計、建築計画、建築論、建築史、建築設計、環境計画、環境保全論、都市計画、景観設計など

○ 画像・音響デザインに関する科目

グラフィックデザイン論、メディアデザイン論、視覚デザイン、視覚伝達デザイン、情報デザイン、コンピュータグラフィックス、エディトリアルデザイン、パッケージデザイン論、印刷デザイン論、視覚媒体論、デザイン心理学、視覚心理学、知覚心理学、視聴覚情報、映像論、映像理論、画像論、画像設計、サウンドスケープデザイン、音響設計、建築音響学、音響工学、聴覚心理学など

○ インタフェースデザインに関する科目

インタフェースデザイン、インタラクションデザインなど

【B群（実験・実習科目）】

○ 生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目

工業デザイン実習、クラフトデザイン実習、CAD実習、環境デザイン実習、インテリアデザイン実習、建築設計実習など

○ 画像・音響デザインに関する実験・実習科目

グラフィックデザイン実習、視覚デザイン実習、エディトリアルデザイン実習、CG実習、インスタレーション実習、写真実習、画像情報処理実験、音響実験、音響構成実習など

○ インタフェースデザインに関する実験・実習科目

インタフェースデザイン実習、インタラクションデザイン実習など

芸術工学の基礎となる工学に関連したレポートを作成する場合には、個別的な内容を単に専門的立場から述べるのではなく、デザインとの関連において論じること。